

(76)

氏名(生年月日)	ウス 白	ゾ 田	ヨリ 頼	ヒト 仁
本籍				
学位の種類	博士(医学)			
学位授与の番号	乙第1804号			
学位授与の日付	平成9年11月21日			
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当(博士の学位論文提出者)			
学位論文題目	神経症状を呈した感染性心内膜炎患者の臨床的研究			
論文審査委員	(主査) 教授 高倉 公朋 (副査) 教授 宮崎 俊一, 小林 慎雄			

論文内容の要旨

〔目的〕

感染性心内膜炎患者がその経過中に発症する感染性塞栓による脳梗塞や脳内出血, また細菌性動脈瘤の破裂などによる頭蓋内病変は予後を左右する大きな要因である。今回我々は, 感染性心内膜炎の治療中に神経脱落症状を呈した患者について, 生命予後や神経学的後遺症に影響を与える因子として発症形式, 臨床症状, 神経放射線学的所見, 内科的治療と外科的治療の適応等につき検討した。

〔対象および方法〕

神経脱落症状を伴った感染性心内膜炎症例のうち, 真菌に起因する感染性心内膜炎症例を除きCTおよび脳血管撮影を施行しえた20例について検討を加えた。

〔結果〕

発症形式は, 出血発症が14例, 梗塞発症が6例であった。脳血管撮影所見では細菌性動脈瘤を認めたもの13例, 脳動脈の閉塞を認めたもの2例であった。また局所性の炎症性血管炎を認めたものは6例であった。多発性動脈瘤は3例に認められた。血管撮影上, 限局性の血管炎の所見のみを認めたものは2例でこれらは全て出血発症であった。13例の細菌性動脈瘤は15例の頭蓋内出血中の10例(66.7%)に認め, 梗塞発症では5例中3例(60%)に認められた。動脈瘤を伴わない出血発症例4例中2例に出血部位に一致して限局性のangitisと思われる所見を認めたが, 他の2例では血管撮影上異常を認めなかった。梗塞発症の6例中3例に細菌性動脈瘤を認めた。内1例に動脈瘤の切除術を施行した。感染性心内膜炎の原因菌検索では20例中14例

に原因菌を認めた。内訳は, レンサ球菌が9例, ついでブドウ球菌が6例認められた。

〔考察〕

感染性心内膜炎患者がその経過中に発症する神経系合併症の頻度や神経脱落症状を呈した患者の mortality rate は依然高いと考えられている。我々は神経脱落症状の原因が出血性病変であれば, 細菌性動脈瘤の破裂による可能性を検索すべくすみやかに脳血管撮影を施行すべきであると考えた。梗塞例に対しては脳血管撮影による感染性塞栓を避ける意味から, 感染性心内膜炎の消退期に施行すべきであると考えた。出血発症例については生命予後を脅かす大きさの血腫に対しては外科的に血腫除去術と外減圧術を施行した。梗塞発症例に対しては感受性を有する抗生物質の投与を基本とし, 抗生物質の投与はCRP陰性後も約3カ月間必要であると考えられた。follow-upの脳血管撮影は炎症の活動期には2~4週毎に施行し, 動脈瘤が縮小, もしくは消失した症例では3~6カ月毎に施行すべきと考えた。

〔結論〕

今回の研究は, 感染性心内膜炎患者が神経脱落症状を呈した際に行う脳血管撮影の時期, 内科的治療と外科的治療の適応, 抗生物質の投与の期間につき検討を加えた。本研究結果は, 感染性心内膜炎患者の治療方針を考えるうえで示唆を与え同患者の予後改善に貢献すると考える。

論文審査の要旨

本研究は、感染性心内膜炎の治療中に神経脱落症状を呈した患者について、生命予後や神経学的後遺症に影響を与える因子について分析しその予後改善を目的とした研究である。著者は神経脱落症状を伴った感染性心内膜炎症例20例について発症形式、臨床症状、神経放射線学的所見、内科的治療と外科的治療の適応、抗生物質の投与の期間等につき検討を加えた。

出血発症例に関してはすみやかに脳血管撮影を行い、適応を有する症例に対しては外科的処置を施行した。梗塞発症例は感染性塞栓を避ける意味から感染の消退期に血管撮影を施行すべきであると考えられた。follow-upの脳血管撮影は炎症の活動期は2～4週毎に施行し、動脈瘤が縮小もしくは消失した症例では3～6カ月毎に施行すべきであると考えた。抗生物質の投与はCRP陰性後約3カ月間必要であるとの結論を得た。

本研究は、感染性心内膜炎患者の予後を改善する治療方針を示す有意義な臨床研究である。

主論文公表誌

神経症状を呈した感染性心内膜炎患者の臨床的研究
東京女子医科大学雑誌 第67巻 第8号
531-538頁（平成9年8月25日発行）白田頼仁、
竹下幹彦、井澤正博、高倉公朋

副論文公表誌

- 1) Splenius type の痙性斜頸に対する Bertrand's Selective Denervation の経験. 脳外 24(3) : 221-226 (1996) 平 孝臣, 川島明次, 河村弘庸, 谷川達也, 白田頼仁, 佐々木寿之, 高倉公朋
- 2) 先天性チアノーゼ性心疾患に伴う小児脳膿瘍の検討. 小児の脳神経 21(6) : 373-380 (1996) 竹下幹彦, 加川瑞夫, 谷藤誠司, 井澤正博, 石井 毅, 米谷博志, 恩田英明, 白田頼仁, 高倉公朋